

屍に乗る人

身體は水のやうに冷か^{つめた}つた、心臓は長い間打たなくなつて居る、しかしその外には死の徴しは何もない。誰もその女を葬る事を云ひ出しもしない。彼女は離別された事を悲んで怒つて死んだのであつた。彼女を葬むる事は無駄であつたらう、——その理由はその死にかけて居る人の復讐の決して死ぬ事のない最後の願は、どんな墓をも寸断し、どんな重い墓石をも破砕したであらうから。彼女が臥してゐた家の近くに住んで居る人々は、彼等の家から逃げ出した。彼等は彼女を離別した男の歸つて来るのを、彼女がただ待つて居る事を知つてゐた。

彼女の死んだ時に彼は旅に出てゐた。彼が歸つて来て、その話を聞いた時に、恐怖に打たれた。『日の暮れないうちに助けて貰はなければ』彼は考へた、『女は私を入つ裂きにするだらう』それは未だやうやく辰の刻であつた、しかし一刻も油断してはならない事を知つてゐた。

彼は直ちに或陰陽師のところへ行つて助力を願つた。陰陽師は死んだ女の話聞いて、その死體を見た。彼は懇願者に云つた、——『一大危険があなたの身の上に迫つてゐます。私はあなたを助けるやうにやつて見るつもりだが、私の云ふ事を何でもするやうに約束して貰ひたい。あなたの助かる方法はただ一つしかない。恐ろしいやり方です。しかしあなたがそれを試みる勇氣が

ないと、女はあなたを八つ裂きにします。勇氣があれば、夕方日の暮れないうちに、又來て下さい』男は震へた、しかし彼は何でも要求される事をする約束をした。

夕方、陰陽師は死體の置いてある家へ彼と一緒に رفتつた。陰陽師は雨戸をあけて、その男に入るやうに云つた。速かに暗くなりかけてゐた。『いやです』男は頭から足まで震はせながら、息を切らして云つた。——『女を見る事もいやです』『見るどころではなく、もつとやるべき事があります』陰陽師は云つた。——『あなたは従ふ約束でした。お入りなさい』彼は無理にその震へる男を家に入れて、死骸のわきへ彼をつれて行つた。

死んだ女が俯伏しに寝てゐた。『さあ、あなたは跨がりなさい』陰陽師は云つた、『馬に乗るやうに、しつかり背中に坐りなさい。……さあ、——さうしなければならぬ』男は陰陽師が支へねばならない程震へた——ひどく震へたが、それでも従つた。『さあ、女の髪を手にもちなさい』陰陽師は命じた、——『半分は右手に、半分は左りに。……さう。……手綱のやうにしつかり掴んで。手にそれを巻いて——両手とも——しつかり。さうするのです。よく聴きなさい。明日の朝までさうしてゐなければならぬ。夜になると恐ろしい事がある——色々ある。しかしどんな事があつても、髪をなしてはならない。はなせば、——たとへ一秒でも、——女はあなたを八つ裂きにしてしまひます』

陰陽師はそれから何か不思議な文句をその死骸の耳にささやいて、それからその乗手に云つた。——『さあ、私は自分のために、ここを去つてあなたを一人にして行く。そのままにして居るのです。……何よりも女の髪をはなさない事を忘れないで』それから彼は戸を閉めて——出て行つた。

何時間も、その男は黒い恐怖を抱いて屍の上に乗つた、——そして夜の静けさは彼の廻りに段段深くなつて、遂に彼はそれを破るために叫んだ。直ちにその死體は彼を投げ落すために、下から跳び上つた。そして死んだ女は大聲で叫んだ、『あゝ重い。しかしあいつを今ここへ連れて來る』

それからすつくと立ち上つて、雨戸のところへ飛んで行つて、それを明け放つて、夜の中へ飛び出した、——いつでもその男の重みを背負ひながら。しかし男は、眼を閉ぢて、手に彼女の長い髪を——固く、固く、——巻いてゐた、——呻く事もできない程の恐怖心を抱いてゐた。どこまで行つたのか、彼は知らなかつた。彼は何物も見なかつた、彼はただ暗黒の中で彼女のほだしの音、——ピチャ、ピチャ、——及び、走りながらヒィヒィ息をする聲しか聞えなかつた。

たうとう踵をかへして、家に走り込んで、始めと同じやうに床の上に倒れた。鶏の鳴き始めるまで男の下に喘ぎ呻いてゐた。それから静かになつた。

しかし男は齒の根も合はないで、陰陽師が夜明に來るまで彼女の上に坐つてゐた。『それで髪

をはなさかつたね』——陰陽師は非常に喜んで云つた。『それはよい。……さあ、もう立つても宜しい』彼は再び屍の耳にささやいた、それから男に云つた、——『恐ろしい一夜であつたに相違ない、しかし外に救ふ方法はなかつた。これからさき、女の復讐からはもう安心しても宜しい』

* * *

この話は結末は道徳的に満足な物と私は考へない。この屍に乗つた男は發狂したとも、彼の髪は白くなつたとも書いてない、私共はただ『男泣く泣く陰陽師を拜しけり』と告げられて居る。

その話に附いて居る註解も失望すべき物である。日本の作者は云ふ、『その人(屍に乗つた人)の孫今にあり、その陰陽師の孫も、大宿直おほしどくのちかと云ふ所(多分おほととのゐ村と云ふのであらう)に今にありとなん語り傳へたるとかや』

この村の名は今日の日本のどんな地名録にも見當らない。しかし多くの町と村の名はこの話が書かれて以來變つて居る。

(田部隆次譯)

The Corpse-Rider. (Shadowings.)